

(令和4年度)
学校自己評価書

園番号	園名
604	佐保幼稚園

604佐保幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	①幼児や地域の実態から教育目標を検討する。	①目指す子ども像を心情・意欲・態度に視点をおき、具体的に考えた。 ②昨年度の評価や課題を基に計画を立案し柔軟に対応できるように配慮した。 ③社会の動きから、ウイズコロナを考え活動の取組方を再び見直し取り組んだ。 ④教育活動報告会や保護者アンケートを実施した。	A	①具体的なめざす子どもの姿を学年で出し合うことができた。 ②少しずつ制限を緩めながら、次年度に繋がる活動の方法を見直した。 ③コロナ禍で無くすのではなく子どもの主体性を育む方法を探る。 ④保護者アンケートでは肯定的な意見が多くあった。	①②③本年度の成果と課題を明確にし次年度の見直しをもって計画を作成していく。不易流行を見極めて教育力の維持を図る。 ④子どもが主体的に自ら考え判断し行動できる力に繋がる教育活動を保障し、保護者に育を具体的に説明できるようにする。
		② 教育計画の作成	②コロナ禍で幼小連携や地域との交流等の教育計画を見直し、ねらいの達成方法を探る。		B		
		③ 教育課程の編成	③教育課程の編成を全職員が主体的に参画する。		B		
		④ 教育活動の評価	④保護者や学校評議員、地域などの評価から教育活動を検証する。		A		
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	①毎月末に指導計画について検討し学年別に立案す	①②奈良市こども園カリキュラムと照合しながら職員同士で取組み、目指す子どもの姿を共有した。 ③計画的に園内研究会を実施したり、講師を招聘したりして指導方法についての力量を身に付ける。 ④毎月末に指導計画について話し合い子どもの発達の段階に沿った指導の在り方を職員間で共有した。	B	①②④こども園カリキュラムと照合しながら行うことで、子どもの姿や保育の課題がよくわかり、連続的な指導計画が立案できた。その中で子どもの心情・意欲・態度面での変容や成長が見られた。 ③指導方法を見直すきっかけとなり専門性を高めることができた。	①②③指導計画に基づいての実践を常に心掛けるとともに、遊びを通して子どもの主体性を引き出す保育者の力量を高めることに努める。教材研究や指導方法の工夫についてのさらに研鑽する。 ④ドキュメンテーションやホームページ等で保護者への教育・保育活動を具体的にわかち合ってもらう機会を増やす。
		② 保育内容の精選	②ねらいを達成できるための保育内容を見直す。		A		
		③ 指導方法の工夫改善	③子どもの主体性を育てる指導方法を探る。		A		
		④ 評価	④子どもの意欲や態度、心情面が育ったかを見極める。		B		
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	①②計画・実践・評価・改善の体制づくりを明確にする。また、感染拡大予防対策を講じる中での行事の精選と内容や方法の再考を図る。	①見直しをもって計画的に取組み、行事に保育が振り回される保育にならないようにする。 ②子どもが主体となって進められるように方法を子どもと共に考えた。今年は地域の方との交流もできたが、子どもの感動体験を減らさないよう対策を講じながらできることは前向きに取り組み、次年度に繋がるような見直しの仕方を進めた。	B	①②保育を長いスパンで考える中に行事を置き、行事一辺倒の保育にならないよう工夫した。園行事の中では職員が減ったこと等で縮小せざる部分もあったが、その度に次年度にも繋がるような形に見直し、来年度に繋げることができた。	①②子どもが能動的に活動できるように保育者が積極的に指導方法を工夫した。地域の文化遺産を如何に取り入れ教育効果を図るか保育者の柔軟な思考が要求される。 ②子どもや園の実態を十分考え、行事を戻すのではなく現時点で考え感染症対策を緩めることが課題であ
		② 行事内容の精選			A		
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	①子どもの実態を踏まえ、学期末に評価する。 ②③互いに違いを認め合い、育ち合える子どもを目指す中で、子どもの感性を育んだり、自分の思いを伝え相手の思いも大切に体験を積んだりできる機会を見逃さない保育者の人権感覚を礎く。	①発達の段階を踏まえ、全職員で見抜き見極めるようにカンファレンスを日常化した。 ②③保育者が子どものつづやきや表情から一人一人の思いを探り「一人一人を生かし、支え合うなかまづくり」をめざすことを常に意識することで人権教育の視点が多面的になったり深まったりした。	A	①②③全職員で一人一人の子どもを多面的に捉え指導・援助方法を探る。感染症対策で異年齢児同士の関係づくりでは難しい部分もあるが、小規模園だからできることを考え進めた。	①教職員で共通理解を図り、指導計画を立案する。 ②③人権教育の視点を意識し実践に努める。「人権擁護のためのチェックリスト」を基盤に評価改善を図り、保育者の人権感覚を高める。
		② 保育内容の精選			B		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	①②子どもに関わる情報を集約し、職員間で共通理解し実践する。幼児教育の専門性を活かし保護者の相談に応じる。 ③守秘義務を厳守し保護者が安心して相談できる関係性を築く。 ④専門機関との連携を図り適切な指導方法を探る。	①②保護者への声かけや子どもの実態の見取り等、全職員が心がけて実践した。 ③保護者が心を開き、安定した様子である。 ④専門機関や小学校との連携が構築できた。	A	①②保護者が前向きに専門機関に相談したり、連携を取ったりできた。 ③④子どもの変容と課題を家庭や専門機関と共有できている。	①②子どもの姿や保護者の様子などを全職員で常に意識して把握し、関わり方を模索する。 ③④個人情報の厳守を図りながら子どもの安心・安全・幸せを一番にして取組む。
		② 教育相談・幼児理解			A		
		③ 家庭との連携			A		
		④ 関係諸機関との連携			A		
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・ 対処方針や指導計画が明確である ・ 日頃より実態把握・早期発見に努めている ・ 各学級の状況を園組織として共有できている ・ 保護者や地域と連携できている ・ 組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・ 奈良市いじめ対策アクションプランを基に対処方法を共有理解し学級経営や指導計画に取り入れる。 ・ 教職員のいじめを見抜く感性を磨くことを常に心がけてきた。 ・ 一人一人の子どもの背景に細やかに心を配り子どもや保護者に対応し子どもの成長や就学に向けて取り組んだ。	A	・ いじめにつながる言動や友達関係を見抜く感性を鋭敏にし、個別に指導したりクラスで話し合ったりした。 ・ 預かり保育では異年齢間での子どもの姿を見抜き、担任との連携を密にし園全体で改善に努めた。 ・ 子ども同士の何気ない理不尽な行いやいじめにつながる言動を見逃さず指導してきた。	・ クラスの課題や問題を全職員間で共有できるように、また職員の感覚や子どもの姿、保護者の姿を見抜きそれに対して瞬時に対応できる力量をつける為にも、複数の目で子ども同士の関係性や内面の把握に努めることが大切になる。 ・ 保護者に子どもの様子をこまめに伝え課題を明確にして具体的な対策を示し迅速に実践する。
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	①全職員が個別の実態把握と支援の方法を共有できるようにする。 ②特別支援コーディネーターの情報を共有し個別の指導計画・支援計画を立案する。 ③特別支援教育の研修に積極的に参加し、スキルや指導方法を身に付ける。 ④⑤関係機関との連携を密にし、保護者の思いにも寄り添う。	①年度初めに園児理解の園内研修を実施し園児の実態把握とこれからの特別支援のあり方を探った。 ②保護者に個別の指導計画を示すことで家庭での協力が得られ信頼関係が深まった。 ③研修を積極的に受け、内容を共有したことで統合遊びの必要性やスキルを学ぶことができた。 ④保護者との連携を密に保護者の思いを受け止めながら関係機関に相談されるよう啓発した。	A	①特別支援教育が必要な子どもへの園の指導体制を整えた。 ②③毎月コーディネーターを招き子どもの様子や指導方法について相談をし、スキルについては直ぐに実践した。 ④⑤園が保護者と関係機関との要となって連携することで、保護者の就学に向けての不安が解消された。	①②③個別の指導計画の書き方や支援の方法やスキルを特別支援教育コーディネーター・関係機関から学ぶことで子ども理解を深める。 ④⑤就学に向けて更に丁寧な連携を図る。 ⑤迅速な対応を取り発達の姿を可視化し有効な指導方法を探る。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容			A		
		③ 指導方法の工夫改善			A		
		④ 家庭との連携			A		
		⑤ 関係機関との連携			A		

(令和4年度)
学校自己評価書

園番号	園名
604	佐保幼稚園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	①②園の進むべき方向性や目標を職員に明示し、常にそれを念頭に保育を行うように働きかける。 ③④職員の能力・適性を把握した上で担任の配置や研修担当、業務の分担を決める。自主的な方法や意見を反映させる。 ⑤⑥毎週水曜日を会議・研修日に位置づけ円滑な園運営を図る。担当者からの議案や提案に基づいて進め、成果・課題を記録する。 ⑦互いに協力できる良好な人間関係を構築する。 ⑧園評価を実施し職員のモチベーションを上げる。	①安心と安全を保障し、質の高い教育・保育を目指すとともに、危機管理においても保育者に指導やアドバイスをした。 ②教育ビジョンを作成し、具体的な取組みを職員や保護者に説明し、教育活動報告会を開催した。 ③④同僚性の意識を高められるような発言や、園務分掌では報告や相談の徹底を図ってきた。 ⑤⑥毎水曜日を会議・研修日と定め担当者が立案し提案や報告を行い、は詳細な会議録を残した。 ⑦気軽に相談できる雰囲気をつくり、課題については迅速に対処した。 ⑧結果や評価を参考に来年度の計画を立案した。	B B A B A	①②感染症拡大や緩和の対策方針を迅速に指示し、臨機応変に保育内容を変更し教育目標達成を目指した。 ③④学級の運営状況を把握し確かな指導を行い目標達成に導いている。 ⑤⑥担当者からの立案を基に会議をもち自主的な取組みを引き出す。 ⑦意思疎通が困難なこともあり、間に入り職員間の協力体制の維持に努めた。 ⑧園評価の結果を率直に受止め職員全員で改善に努めた。	①②園運営に際しては不測の事態を想定し、対応策を用意する。 ③④職員がPDCAサイクルを意識し常に徹底できるようにする。 ⑦⑧園評価の項目を職員で話し合ったり新たな対策を検討したりして自ら高め合うチームワークづくりを図る。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	①研究主題・人権教育・特別支援教育・安全管理等において研究計画を立案し、系統的組織的に実施する。	①②担当別に計画を立て研修組織を確立した。研修の一環として外部から来られた方に話を聞く機会を設け園内研修会をもった。カンファレンスを日常化し子ども理解に努めた。	A A B	①担当者からの積極的な発信を基に意見を出し合い共通理解を図った。 ②公開保育を実施し他園の保育者とのカンファレンスはとても有効であった。 ③④リモート研修を積極的に受講し園内で共有できた。 ⑤実技に参加できなかった。	①資質向上に向けて自己研鑽を積み意識を常にもつ。 ②研修時間をもっと確保できるように仕事の効率化を図る。 ③④一人一人が向上心を持ち続け積極的に研修に参加する。 ⑤研修で得た知識・情報を活用す
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施	②園内研究会を実施し、保育の質の向上に努める。	③④リモート研修では日頃聴講できない講演を聴くことが出来た。資料の増刷りや回覧、参加しての感想や成果の報告が定着した。			
③ 園外の研修への積極的参加		③④リモート研修を積極的に受ける環境づくりをし、園内で共有したりカンファレンスにいかしたりする。	⑤論理的な記述に役立った。				
④ 園外研修内容の報告や伝達		⑤スキルを高め保育の中で活かす。					
⑤ 研修成果の普及							
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	①②安全計画・防災計画を全職員で見直す。遊具の安全管理は月末に必ず実施するとともに随時園長に報告する。 ③危機管理マニュアルを理解し危険・事故を未然に防ぐ意識を高める。緊急時の連絡体制を整える。 ④⑤感染拡大予防対策の現状を伝え保護者に理解と居力を得る。	①②④避難訓練を月1回計画し実施した。 ③職員が定期的に安全マニュアルに従って点検し改善に努めた。 ⑤⑥不審者対応や園の実態から、保育総務課に施設の必要な改善を相談し、保護者の理解と協力を得て常に園門の施錠することにした。	A A B B A B	①②避難訓練は計画通り実施することができた。 ③緊急連絡方法を整備した。 ⑤⑥今年もコロナ禍で消防署の見学を中止した。	①②③④常に危機管理意識をもち今後の子ども達の安全保育に努める。園門の施錠では、職員室が無人になることが多くインターホンに気付かない・その度に門まで走り鍵を開閉する等の職員が少ない中での課題は大きい。 ⑤⑥今後は消防署見学を実施する。	
	② 防災計画の立案						
	③ 危機管理体制の整備						
	④ 安全指導の工夫改善						
	⑤ 家庭との連携						
	⑥ 関係機関との連携						
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	①子どもの様子を知らせる園だより、クラスだよりの発行、保健だより・保健新聞の掲示を計画する。 ②③健康観察カードの徹底化、身体測定行い健康管理に努める。健康安全な生活に必要な習慣や態度を家庭に啓発をする。 ④⑤学校薬剤師の指導や保育総務課の指示に従って感染症対策に努める。	①③感染拡大予防対策においては、常に新しい情報を収集し実施した。子どもが必要を理解し、自ら感染症対策を身に付けられるようにした。また、一時期より担当者との連携を徹底し子どもの健康管理を共有した。 ④⑤飛沫防止や換気を徹底して防いだ。パーティーの有効利用と黙食を徹底した。	A B A A A	①③感染拡大予防対策が日常化した中でも気を引き締めて取組んだ。感染症対策から保育や行事の方法を常に見直した。 ④⑤対策項目に沿って保育室の環境を見直した。担任だけでなく園全体で対策を実施した。	①③④子どもが自ら健康でたくましく生きようとする目標に向け、新生活様式での習慣を身に付けるように指導を工夫する中で、保護者のへも集団での対策の必要性を啓発してきた。今後、感染症対策緩和の進め方に対しても園の実態を知らせ保護者の理解を得ながら進める。	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備						
	③ 健康観察、健康管理能力の育成						
	④ 関係機関との連携						
	⑤ 昼食の衛生管理						
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	①HPやドキュメンテーションを作成し取組の様子を公表し、地域に園の様子を知らせる。 ②園の実態や感染症対策に合わせて地域の方との交流を進め始める。 ③例年通りの小学校との交流はできないが、接続期の取組方を考える。 ⑤園児減少とコロナ禍においてPTA活動の簡素化を模索し次年度につながる改革をする。 ⑥さほっ子クラブをはじめ地域の教育力を活かす。 ⑦就学前教育における取組について評価を実施する。	①行事中心のHPになりがちであった。 ②④⑤行事を地域に公開することはできなかったが、取組は保護者から高い評価をいただいた。 ③小学校とは子ども同士の交流はできなかったが、小学校長による絵本の読み聞かせや教頭によるサンタ役をお願いした。 ⑤先を見通し組織改革を大幅に行うことができた。 ⑥運営委員会の開催はできなかったが、次年度の行事の維持が難しいこと報告・相談した。 ⑦紙面で取組みを報告し評価をいただく。	B B B B A B B	①発信についてはコドモンと紙媒体との使い分けを考慮した。 ②③④⑤コロナ禍で中止や変更しながらも前向きに取組んだ。小学校との交流では職員だけでも繋がる工夫が必要である。 ⑥佐保幼稚園の特色ある教育をどのように維持するか職員間で協議した。 ⑦今年度の取組について理解と評価をいただく。	①参観人数に限られる中での子ども様子の伝え方を工夫する。 ②③④⑤多くの地域の方を迎えることは難しいが、広報活動を工夫して今後も取組みたい。 ⑥⑦地域の人・もの・ことに関わり、地域愛を育む方法を再考する。	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ PTAの活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	①②③幼児教育施設として安全で教育的意義のある環境を保障する。	①②③未然に危険を防げるよう全職員で園の実情をもとに子どもの行動を予測し、保育室の環境整備や園門の施錠を見直す等、安全な環境を構成した。自治会や近隣住民の声に少ない職員で対応した。	A B B	①②③子どもの安全面を担保できるように環境を見直す。空き部屋等を有効利用する。	①②③常に安全確保の意識を高め有効利用できるアイデアを出し合う。園舎北側道路に関して配慮して通行することを全職員で把握しておく。	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	①②③④情報管理マニュアルに基づき周知徹底する。	①②③定期的に管理方法の見直しを図るとともに、複数の目で情報収集や保管のあり方・出し入れを管理した。情報漏れにつながることを禁止する。 ④必要不可欠な情報を精選して収集する。	A A	①②③情報機器の管理場所の施錠や個人情報の管理はマニュアルを遵守した。	①②③個人情報やセキュリティーに関する一人一人の危機管理意識を再確認し、共通理解を行う。	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						